

現在、全国的にコロナ感染症の状況はますます悪化しています。国内の新規感染者は一日2万人を超え、重症者もかつてない数に増加しています。東京ではコロナ病床使用率は56%、重症者病床使用率は80%近くになり、入院できない方が在宅で死亡する事例も生じています。岡山も例外ではなく、新規感染者は200人を超える日もあり、今はまだステージ3の状況ですが、第4波の際に生じた基幹病院の入院制限なども今後想定され、医療体制は危機的な状況に至る可能性があります。こういった中、私たち、佐藤病院で医療・介護に携わる人間ができることを、今一度、職員と一緒に考えたいと思います。

1. 佐藤病院としてできる医療を継続していくこと

佐藤病院はコロナ病床を持った施設ではありません。基幹病院(指定病院)では、一般病床をコロナ専用病床に変えてまでコロナに向き合い、戦っています。しかし、コロナ患者がいくら増えても一般の病気が減るわけではありません。そういった基幹病院が機能するためには、佐藤病院が、ポストコロナを含め、ポストアキュート機能を持った病院として基幹病院からの患者を積極的に受け入れ、負担軽減をサポートしていくこと、それが地域医療の崩壊を防ぐ大きな役割だろうと思います。そのためには院内の医療体制を守ること、つまり院内感染を防ぎつつ、積極的に医療・介護をすすめていくことです。ひとたび院内感染が生じ、医療・介護そのものが継続できなくなれば、何ら役割が果たせなくなってしまうからです。

2. 院内感染の防止のために今気をつけること

これまで、佐藤病院では院内感染防止のために、発熱外来のトリアージを含め、皆さんの協力の下に多くの対策を実践してきました。最近のコロナ感染症の動向は医療・介護施設でのクラスターが減少して、会社、学校、家庭内での感染が増加しています。それは医療従事者のワクチン接種が完了し、まだワクチンが行き届かないところでの感染ということの現れだろうと思います。ただ、現在流行の大半を占めるデルタ株はワクチン接種で重症化は防げるにしろ、感染の完全な防御はできず、いわゆるブレイクスルー感染(ワクチン接種者の感染)が報告されるようになりました。デルタ株の感染力は水疱瘡に匹敵するといわれる強いものです。今後院内感染を生じるとすれば、私たち職員や患者・利用者からの感染です。水際対策の強化とともに、決してワクチン接種がすんだからではなく、職員一人ひとりが初心に返ってもう一度個々に感染予防を徹底すること、また、組織としての新たな感染予防対策を考えていくべき時期かと思います。

3. ワクチン接種への対応

このコロナ感染症拡大防止の一つの大きな対策は、ワクチン接種人口の拡大だろうと思います。これに関しては、佐藤病院だけで7月末までに4890回のワクチン接種を行ってきました。国の施策が転々と変わる中、現場が振り回されてきましたが、その中で本当に職員の努力と綿密な計画・配慮によって1バイアルも無駄にすることなく接種を行って行くことができました。時間外など、毎日遅くまで頑張ってくれる方々のおかげでここまでやってこられ、本当に感謝しています。ただ、このワクチン接種はまだまだ続きます。佐藤病院としてコロナ対策への貢献のひとつはこのワクチン接種だと私は考えています。半ばボランティア的な側面もありますが、今後も、焦らずゆっくり着実に、ワクチン接種を進めていきたいと思っています。

4. 希望をもって今を乗り越える

職員が集まる病院としての楽しい行事や研修会はこの2年間何も行われていません。仕事だけではなく、日常生活でも制限が多く、ストレスのたまる毎日です。波が静まったかと思えばまた次の波、もう5回目となった波の中で、いらだち、もがいているのが現状です。ただ、いつかはこの波はおさまり、みんなでコロナ収束を祝う日が来ると私は確信しています。それまで苦しいでしょうが、今の制約された生活の中で、楽しみを見つけ、笑顔になれる時間を作って、賢く対応していきます。まずは、皆でこの第5波に立ち向かい、力を合わせて乗り越えましょう。どうかよろしくお願いします。